卫州兀牛	<u> </u>	度実施事業分) 事務事業評価	評価票				No.	13-008
PDCA	事務事業名	環境保全事業	部課等名	市民経済	部 環境課	環境保	担当	榊原
		 章: 第3章 にぎわい	1 創出と良好		立するま	た	内線等	332
P 総合計画との関係性等	政策体系	章: 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節: 第2節 環境との共生						
		基本施策: 1. 地球・地域環境の保全						
		単位施策: (2) 地域環境保全						
	15 15 1 4 4	個別施策: ①公害防止						
	根拠法令等	「 <u>騒音規制法、振動規制法、半田市環境保全条例</u> 「						
	対象・目的	市民の良好な生活環境を維持するため、地球及び地域環境の保全を図る						
	目的を達成 するための 手段・活動 内容	所等に対し適切な指導を迅速に行う。 環境保全協定締結事業所へは立入検査を実施し、各施設の管理状況等について確認を行う。 環境基本計画の着実な推進を図るとともに市民や事業所、有識者の意見を政策に反映させるため、はんだ環境パートナーシップ会議を行う。						
■ 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績			28年度	29年度	30年度	単位
		①大気汚染常時監視測定項目数			4	4		項目
		②公共用水域水質測定回数			228 8	232	232	回回
		③環境保全協定締結事業所等立入検査回数 事業費			7, 741	6, 571	6, 653	
				人件費	10, 800	9, 518		
				総事業費	18, 541	16, 089	18, 958	千円
		活動単位当たりのコスト			28年度	29年度	30年度	単位
		①環境保全事業に係る市民1人当りのコスト ②大気汚染常時監視に係る市民1人当りのコスト			156 21	136 20		
		③公共用水域水質分析に係る			50	19	20	<u>円</u> 円
	成果	成果指標		, , , , , ,	28年度	29年度	30年度	単位
		①大気汚染物質に係る環境基	準達成物質	実績値	4/4	4/4		
		数		目標値	4/4	4/4	4/4	物質
				実績値	3/5	3/5	· ·	
		実績値 日標値 3協定締結事業所への調査実施件数 実績値 実績値 といっている では、					河川	
					5/5	5/5	,	
				実績値	_	_	10/39	件
		目標値			_	_	10/39	
■ 課題の整理	観点別評価	必要性 有効		 有効性			 	
			妥当 ④上位施策への貢献		ナキハ			ある
			⑤成果向上の		ない		※対象・	
			⑥類似事業の			⑧受益者負担		なし
	事業の 評価・課題	大気の常時監視や公共水域の水質検査等により、市内の生活環境が概ね良好であることが確認できた。矢勝川の水質が悪い要因の一つが、周辺の畜産農家からの汚濁成分の流入であることが確認できたが、元々の水量が少ないことや、公共下水道未接続の家庭や合併浄化槽未整備の家庭からの排水、長年蓄積したへドロ等、複合的な要因も考えられ、水質改善のための課題は多い。環境保全協定を締結している39事業所の内10事業所に立入調査を行い、環境保全計画書に沿った排水や排気、騒音などの自主測定の実施状況の確認などを行い、事業者が協定に従って環境保全に努めていることを確認した。また、市民・事業者・行政及び有識者で組織するはんだ環境パートナーシップ会議を行い、半田市環境基本計画に関する評価・提案書を取りまとめた。関係各課へは委員の提案を今後の事業に反映させるよう依頼した。						
▲ 課題解決のための目	今後の事業 の方向性	大気・水質等が環境基準を満たし、良好な生活環境が維持されているかどうか確認するため、引き続き監視を行う。基準を満たしていない場合は、原因を探り、改善が図られるよう関係各所に働きかけを行う。また、市内の既存の大規模事業者に対しては、経済課企業立地担当とも連携し、環境保全協定の締結を促す。 はんだ環境パートナーシップ会議からの提案については、次期半田市環境基本計画に反映させたいと考えており、提案を実現させるための各種取組みを行っていく。						
	令和元年度	成果指標				目標値	単位	
		①大気汚染物質に係る環境基準達成物質数				4/4	物質	
		②市内河川に係るBOD基準達成河川数					5/5	河川
標								